

Express5800/ft サーバ日時修正手順

Express5800/320Fa-xx および 320Fb-xx（以下、ft サーバと記載）の日付不正問題により、日時が不正となってしまった場合の修正手順について、以下に記載いたします。

【問題発生時の日時修正方法と注意事項】

ft サーバの日時が不正になってしまった場合、またはそれが疑われる場合は、サポート契約に従い所定のコールセンターへ連絡するか、システム担当者様の管理の下、下記の手順にて日時の修正を実施ください。

1. OS 起動前の日時修正方法

シャットダウン、リブート直後であれば、BIOS Setup メニューから日時の修正が可能です。本文書の「1. BIOS Setup メニューで日時を修正する場合」（ページ 2）をご参照ください。

2. OS 起動後の日時修正方法

Windows OS 起動後の日時修正につきましては、本文書の「2. Windows OS 上で日時を修正する場合」（ページ 6）をご参照ください。なお、データベースをご使用されている場合、3 項もあわせてご参照ください。

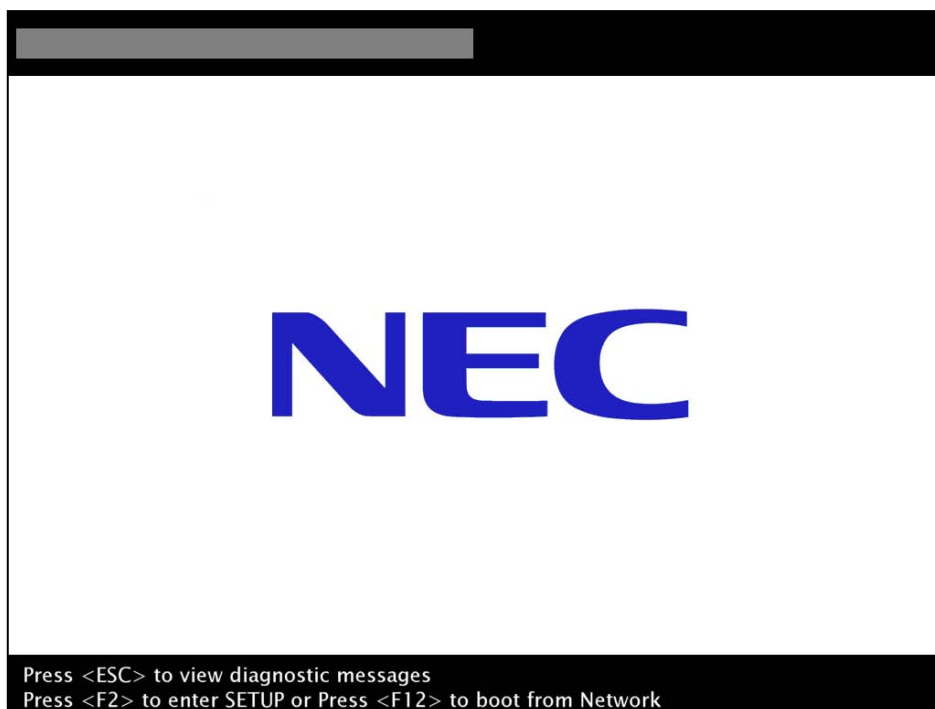
3. データベースご使用時の注意事項

ft サーバにてデータベースをご使用されている場合、日時を修正される前に「3. データベースご使用時の注意事項」（ページ 8）をご参照ください。

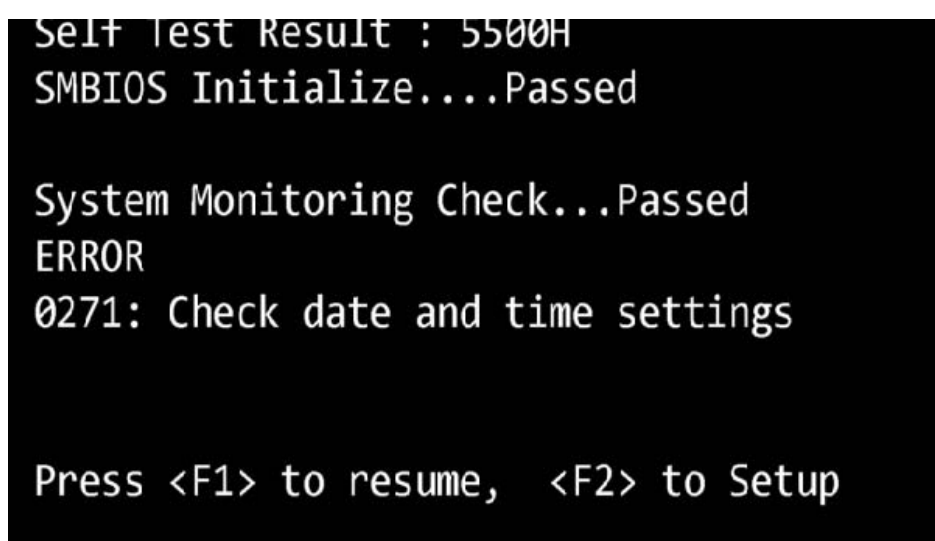
1. BIOS Setup メニューで日時を修正する場合

1) BIOS Setup メニュー起動

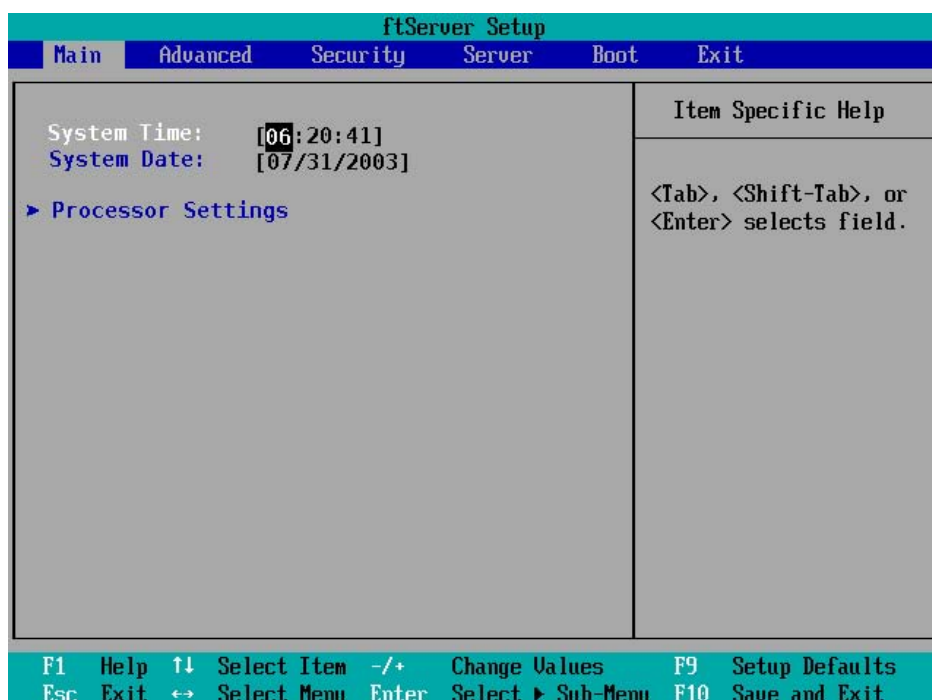
ft サーバの電源投入後、下記の BIOS 画面が表示されている間に「F2」キーを押して、BIOS Setup メニューに入ります。



日付不正が発生した際には、下記のように表示される場合もあります。この場合も同様に「F2」キーを押して、BIOS Setup メニューに入ります。



下記の BIOS Setup 画面が表示されます。「Main」タブが選択されていない場合には、カーソルキー「←」「→」を使用して、「Main」タブを選択して下さい。



「Num Lock」キーを押して Num Lock を ON にします。すでに ON になっている場合には、そのまま構いません。「Num Lock」キーが ON の場合には、「P」キーは「-」キー、「;」キーは「+」キーとして動作します。「-」「+」キーは、後ほど日時を設定する際に使用します。

※ 以降では、「P」キーを「-」キー、「;」キーを「+」キーと記載します。

※ 別途、テンキー付のキーボードを使用されている場合には、「P」「;」キーではなく、テンキー上の「-」「+」キーを使用して下さい。

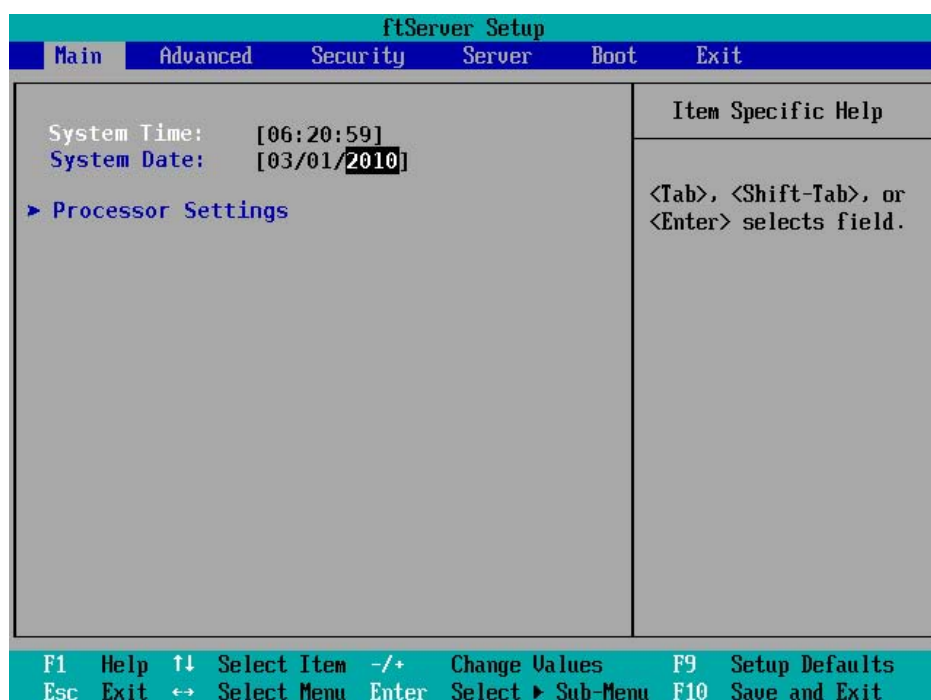


2) 日付、時刻の修正

「System Time」で時間を、「System Date」で年月日を設定します。「System Time」と「System Date」との移動には、カーソルキー「↑」「↓」を使用します。「+」キーまたは「-」キーを押すことにより、反転表示されている値(下記の写真では、「年」)が増減します。また、「Enter」キーを押すことにより、変更する値を切り替えます(「System Time」が選択されている場合には、「時」→「分」→「秒」→「時」→…、「System Date」が選択されている場合には、「月」→「日」→「年」→「月」→…のように切り替わります)。これらの手順により、日時を設定して下さい。手順例を下記に示します。

[設定手順例]

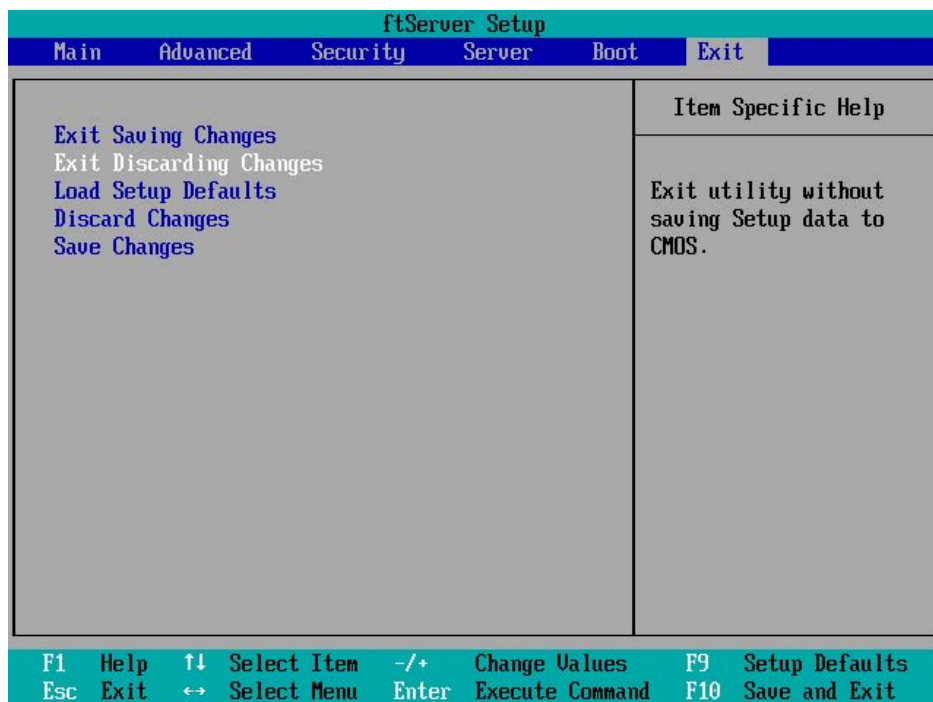
1. カーソルキー「↑」「↓」で「System Time」を選択する。
2. 「+」「-」キーで「時(hour)」を設定し、「Enter」キーを押す。
3. 「+」「-」キーで「分(minute)」を設定し、「Enter」キーを押す。
4. 「+」「-」キーで「秒(second)」を設定する。
5. カーソルキー「↑」「↓」で「System Date」に移動する。
6. 「+」「-」キーで「月(month)」を設定し、「Enter」キーを押す。
7. 「+」「-」キーで「日(day)」を設定し、「Enter」キーを押す。
8. 「+」「-」キーで「年(year)」を設定する。



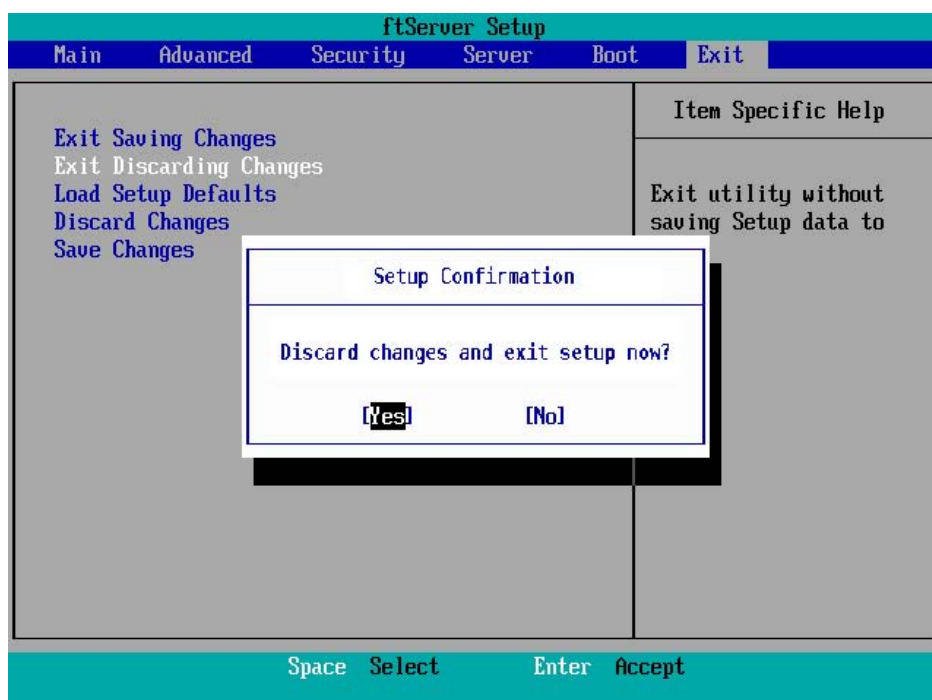
3) BIOS Setup メニューの終了

日時の設定が終わったら、カーソルキー「←」「→」を使用して、「Exit」タブまで移動します。「Exit」タブまで移動したら、カーソルキー「↑」「↓」を使用して「Exit Discarding Changes」を選択し、「Enter」キーを押します。

※ 「Exit Discarding Changes」を選択した場合でも、上記で設定した日時は保持されます。



下記のようなダイアログが表示されるので、カーソルキー「←」「→」を使用して「Yes」を選択し、「Enter」キーを押します。



2. Windows OS 上で日時を修正する場合

1) 日付と時刻のプロパティの起動

管理者アカウントでログインしてください。

通常、画面の右下に時計が表示されています。この時計をダブルクリックします。時計が表示されていない場合、次の手順を実行します。

1. [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. 次のコマンドを [名前] ボックスに入力し、[OK] をクリックします。

timedate. cpl

2) 日付の設定

[日付と時刻] タブをクリックし、[日付] ボックスの左側のボックスの一覧から任意の月を選択し、右側のボックスの一覧から任意の年を選択します。次に、下のボックスの一覧から任意の日を選択します。

① [日付と時刻] タブをクリックします。

② [日付] ボックスの左側のボックスの一覧から、現在の月をクリックします。
ここでは例として、[3月] を選択します。

③ [日付] ボックスの右側のボックスの [▲] または [▼] をクリックし、現在の年をクリックします。

④ [日付] ボックスの下側のボックスの一覧から、現在の日をクリックします。
ここでは例として、[1] を選択します。

3) 時刻の設定

[時刻] ボックスの変更したい時間、分、秒をクリックしてから、[▲] ボタンまたは [▼] ボタンをクリックし、時刻を設定します。次に、[OK] をクリックします。

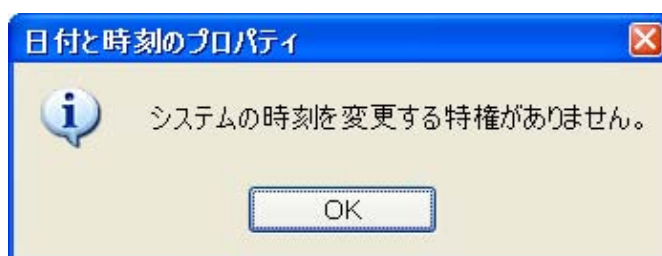
- ① [時刻] ボックスの変更したい時間、分、秒をクリックしてから、[▲] ボタンまたは [▼] ボタンをクリックし、時刻を設定します。



- ② [時刻] ボックスの設定が終わったら、[OK] をクリックします。

注意

カレンダーと時計のボックスではなく、次のメッセージが表示される場合は、管理者アカウントでログオンしていません。



この場合、まず管理者アカウントとしてログオンする必要があります。管理者アカウントでログオンするには、次の手順を実行します。

1. コンピュータからログオフします。
2. 管理者アカウントの名前とパスワードを入力して再度ログオンします。

3. データベースご使用時の注意事項

日時が不正になった状態のままデータベースを運用すると、データベースに問題が生じる場合があります。以下に従ってご対応ください。

1. OS の日時が不正になっている間は、日時を正しく修正するまでデータベースを起動しないで下さい。
この方法が最も安全です。データベースの自動起動が設定されている場合には、OS 再起動直後にデータベースが起動しないように、日付不正問題が発生し得る期間中は、自動起動設定を OFF にするなどのご対応をご検討下さい。
2. データベースの自動起動が設定されており、上記「1.」の対応が出来ずに、日時が不正な状態のままデータベースが起動してしまった場合は、データベースを一旦停止後、日時の修正を行ってください。データベース稼働中に日時の変更を行わないでください。
また、データベース再稼働の際は、日付が不正となっていた期間に処理されたデータに不整合がないことを確認してから再稼働させて下さい。
3. 上記「2.」の対応が出来ず、データベース稼働中に日時の修正が行われた場合、またはデータに不整合が生じ、データベースの復旧が必要となった場合は、保守サポート契約に基づき、所定のコールセンターへお問い合わせ下さい。

Oracle の場合

Oracle の日時変更に関する影響は「Oracle 知識ベース」KROWN 16785 をご参照下さい。

https://krown.oracle.co.jp/krown/oisc_showDoc.do?c_criterion=num&id=16785

データベースの復旧に関しては保守契約に基づき、PP・サポートサービス(NEORC: NEC Oracle Response Center) で対応させていただきます。

MS SQL の場合

MS SQL の日時変更に関する影響は「マイクロソフト サポート オンライン」KB 951622 をご参照下さい。

<http://support.microsoft.com/kb/951622/ja>

データベースの復旧に関しては PP・サポートサービスで対応させていただきます。